

編集後記

平成23年3月11日、東北地方太平洋沖で発生した地震は、日本の観測史上最大のマグニチュード9.0を記録しました。この地震で発生した津波と、原子力発電所からの大量の放射性物質の放出事故により、地震発生から4ヶ月が経過しようとする今尚10万人以上もの方々が避難生活を余儀なくされ、不自由な生活が続いています。この度の震災により被害に遭われた皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。

阪神・淡路大震災を思い出します。筆者が高校3年生の冬、センター試験を終えいよいよ2次試験に向けて大学受験も大詰めとなった平成7年1月17日早朝でした。倉敷の実家2階で就寝していた私は大きな揺れに目を覚ました。急いで本棚を抑え、一旦揺れが治まったところで1階に下りると、酸素吸入装置を常用していた80歳近い祖母が、停電に備えいち早く携帯用酸素ボンベに切り替え、小脇に抱えられるだけの荷物を手に避難準備が整っていたことに驚くと同時に、自己の地震への対応の不甲斐なさを痛感したものでした。

さてこの度、本誌の副編集長という身分不相応な大役を与り、当初は大変困惑しました。しかし、貴重な経験をする機会を頂いたことに感謝し、今はその責務を果たすことに尽力しています。この未曾有の大災害の復興と支援には、医療福祉の発展という観点からも大いに貢献できると考えており、本誌への皆様からのより一層の精力的な投稿を期待します。

編集委員 茅野 功

川崎医療福祉学会誌

平成23年7月25日発行

発行者 梶谷文彦

発行所 川崎医療福祉学会
〒701-0193 倉敷市松島288

印刷者 山川昌夫

印刷所 研精堂印刷株式会社
〒700-0034 岡山市北区高柳東町10-30

連絡先 川崎医療福祉大学 中央教員秘書室
〒701-0193 倉敷市松島288

TEL 086-462-1111 内線54095

086-464-1010 (直通)

FAX 086-463-3508